

WEBツアー～シドニー旅行2010

1、日程(9月10日～19日)

今回の旅の目的は、ブレディスローカップ観戦(ラグビーのオーストラリア・ワラビーズ対ニュージーランド・オールブラックスの国際試合)がメインで、シドニーで開催される9月11日に合わせて旅を組み立てました。



インターネットで情報を集め、時刻表やツアーを調べて予約をして、シドニー周辺を広く観光してみました。



四国観光達人として、この旅をわかりやすく説明するなら、拠点であるシドニーを高松と考えると、リゾート地の小豆島(マンリー)にフェリーで出かけ、科学技術最先端の兵庫県の西播磨・光都地区(キャンベラ)へのバスツアー、山歩きで人気の石鎚(カトウンバ)に一泊して、四国カルスト(ジェノランケーブ)を探検して、瓶が森(ウエントワースフォールズ)の風景を満喫。讃岐白鳥(ゴスフォード)で個性派の動物園を訪問。サンポート高松(ダーリングハーバー)から船に乗ってクルーズ(クジラウォッチング)などなど・・・って、

「そんな例えで、わかるやつおらへんやろ～」

などと言う声も聞こえてきますが、シドニー周辺を裏代官のWeb力とお代官様の英語力(会話はパラパラ、ヒヤリングはボロボロ、読むのはボチボチ)を合わせて満喫してきました。



2、マンリー

定期船やクルーズ船の拠点であるサーキュラキーからフェリーに乗って半時間、地元で人気のリゾート地・サーフィンと海水浴でにぎわうマンリーに到着です。

行きは、ノースヘッドというタスマン海に突き出した岬の先端の駐車場までタクシーを飛ばし(登りがきつくて歩くのが大変です)ウォーキングトラックを進んで、断崖絶壁を見学。



オーストラリアの地形を表現するのにテーブルランドなんて言葉を使いますが、ここは、まさに文字通りの場所で海から垂直に崖が立ちあがっています。

帰りは、ジョギングに励む地元の皆さんと挨拶を交わしながら、青い海と白砂のシェリービーチやマンリービーチ経由でマンリーのメインストリートまで徒歩で戻ってきます。

フィッシュ&チップスのランチを済ませて、市内に戻ろうと埠頭に到着すると、続々と市内からの上陸客が降りてきます。



大都会からたった30分でこんな自然に恵まれた素晴らしい場所があるなんて、びっくりくりくりで、そんな都会に住める地元の皆さんを羨ましく思いました。

3、キャンベラ

「オーストラリアの首都は？」という問いかけには、シドニーやメルボルンという答えが返ってくると思いますが、正解は、この2つの大都市を直線で結んだ中間点に位置する人工都市・キャンベラです。

なんと、ブッシュ地帯を伐採して、人工的に湖を建設し、キャピタル・ヒール(国会議事堂のある場所)を中心に放射線状に道路を配置して、行政機関や教育施設などを計画的に建築。

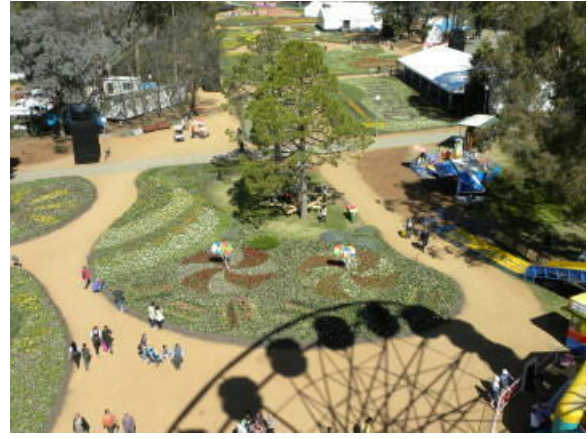
設計したのは、アメリカのウォルター・バーリー・グリフィンという建築家だそうで、シドニーのあるニューサウスウェールズ州の中に位置しながらもACT(Australian Capital Territory)という特別な行政区域になっています。



今回は、セントラル駅から長距離バスに乗って3時間半、キャンベラの街を訪れました。ここは内陸部だけあって、シドニーに比べ寒くて、官庁街でもあるので、スーツ姿の人が目立ちます。お代官様は、フレンドリーにラグビー・スーパー14のACT本拠のチームであるブランビーズの半袖のポロシャツを着て行ったのですが、滞在中ずっと上着を羽織ったまま。

ここでの目的は、コモンウェルス公園で開催されているフラワー・フェスティバル(Floriade)で、公園一面を飾る豊かなカラーの春の花を観賞する事で、観覧車に乗って会場全体を高いところから眺めて、展示物、お店、イベントなどを見学。





続いて街の頂点でもあるキャピタル・ヒールの国会議事堂を訪問し内部に突撃。荷物検査さえ受ければ、無料で国の立法を司る場所に進入できます。エレベーターで三角形の頂点がある屋上に登って、人工的に構築されたこの美しい都市を展望して一日を終了。オーストラリアを支配した気分になりまして・・・またまた3時間半かけて、長距離バスでシドニーに戻ります。



4、カトウンバ

シドニーの旅行案内のパンフレットで必ず目にするものは、オペラハウスやハーバーブリッジのあるウォーターフロントと、スリーシスターズのある世界遺産・ブルーマウンテンズです。

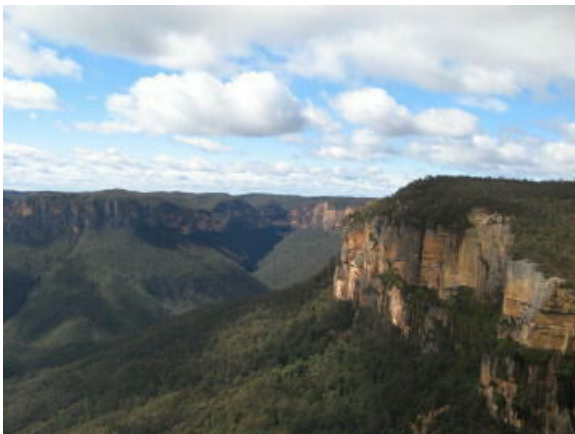
このブルーマウンテンズの観光の拠点がカトウンバで、ツアーと言えば、3つの岩が並んでテーブルランドからせり出すスリーシスターズを眺めるエコーポイントと、ケーブルカーやロープウェイの乗り場で、カトウンバ滝を眺望するシーニックワールドに立ち寄って写真を撮って終わりますが、せっかく

世界遺産を訪問するのですから、もっと時間を有意義に使うべきだと思いませんか。



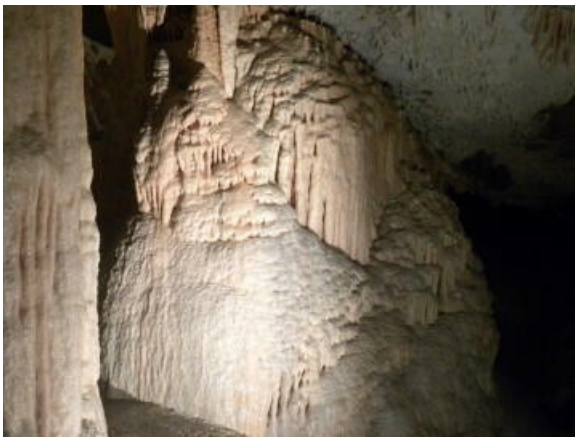
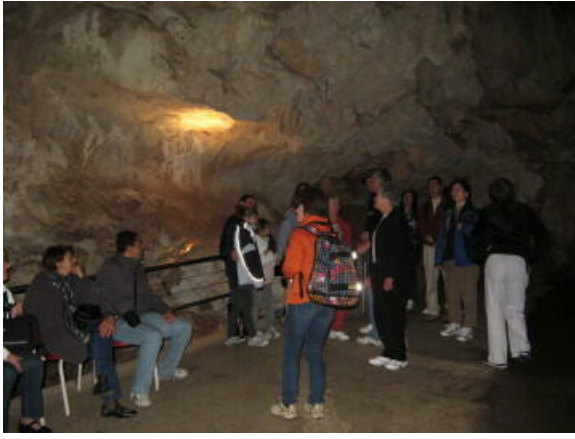
ここは、セントラル駅から電車で2時間(1時間に1本程度のペースで列車のダイヤが組まれています)車窓から都会、近郊都市、オリンピックスタジアム、ユーカリの森、テーブルランドを眺めながら「乗り鉄」するのがお勧めです。

ここでの行動は、ブッシュウォーキングが最高で、エコーポイントのインフォメーションで地図を買って、ジャイアント・ステアウェイから、スリーシスターズを降りて、フェデラルパスを歩いて、テーブルランドの断崖絶壁を体感しましょう。



実のところ、世界遺産のブルーマウンテンズの眺望がお気に入り、ここを訪問するのは4回目ゆえ、今回はカトゥンバからジェノランケーブ・バスツアーに参加して、エコーポイント付近のモーターに宿泊、翌日はウエントワースフォールズのブッシュウォーキングという行程を組んでみました。

ジェノランケーブはオーストラリア最古の鍾乳洞で、ケーブハウスからツアーで鍾乳洞を案内してもらいます。ここには数個の鍾乳洞があって各種のツアーを選択するのですが、中はほとんど同じものと判断して、「Lucas」というツアーを選んで幻想的な内部を歩きます。途中、照明を消して暗黒を体験、洞内に音楽を流して天然の音響効果を体感。言葉がわからなくても身振り手振り、耳に入る単語や他のツアー客のリアクションなどから説明を勝手に判断するだけでしたが、幻想的な空間で、素敵な時間を過ごせたと思っています。



また、50人乗りのバスに乗車したのがたった6人で、運転手さんが「バスが満員になる日もあるけど、今回はVIP待遇です。」なんて冗談で言っていました。ゆったり座れて、道中、野生のワラビーにも遭遇、最後はツアーで一緒した台湾人女性の提案で、モーテルの前まで送迎して貰えました。

続いて、彼女と一緒にエコーポイントまで歩き、スリーシスターズのサンセットを見学。日本語・英語・中国語を駆使してコミュニケーション。沈む夕陽に照らされて黄金色に輝く世界遺産の岩、山々の影が深いブルーから、紺色に変化していく姿に、3人の東洋人が、「寒い〜！」とか「フリージング・コールド！」なんて口に出しながら、カメラを向けました。陽が沈んでフィニッシュ。こちらはモーテルへ、彼女は駅前のYHAなるバックパッカーの宿へ。



台湾の彼女は、月曜日から木曜日までカトウンバ滞在、毎日夕方5時にエコーポイントでスリーシスターズにカメラを向けるのを日課とし、私たちと行動を共にした水曜日が一番の天気だったと笑顔で話してくれて、木曜日にブリスベーンまでバスで移動するそうです。

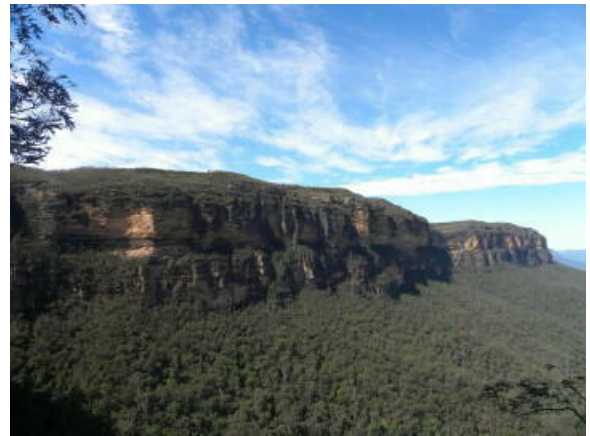
ともかく、そんな笑顔と、行動力と語学力からパワーを貰って、隣の国に負けてはならないって気分をさせていただきました。

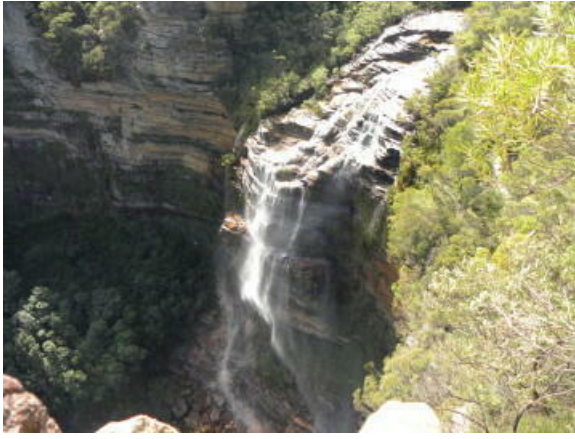
5、ウエントワースフォールズ

翌日は、エコーポイントで朝のスリーシスターズを見学、少し散歩してインフォメーションセンターの開店を待ちました。



現在ほどネットで下調べをせずに、シドニーよりロイヤル・ナショナルパークのブッシュウォーキングをした際に、途中で道に迷い、ブッシュの中を引き返し、そんな不安な気持ちの中、ドサツという音が聞こえて(たぶん野生のカンガルー)道案内の道標に気付かず、陽が落ちるまで時間もなく、人ともすれ違うことなく、異国の地で遭難しそうになった2007年の経験から、地図だけは購入するようにしています。ちなみに、迷った地点に戻って、ゆっくり四周を見て、唯一進んでない川を横切る方向を選んだら、なんとか道標が発見できて、陽が沈む寸前に人里に出て助かりました。ほんと、山を舐めちゃいけませんぞ。





ともかく、地図を購入して、インフォメーションセンターのお姉さんのお勧めの「ニューサウスウェールズ州で一番見晴らしの良いナショナルパス・コース」にマーカーでチェックをして貰って、タクシーに乗って出発点に向かいます。

コンザーベーション・ヒュッテなる出発点から、ブッシュを抜けると眺望が開け、鉄の階段を降りて、お勧めのナショナルパスを進む。天気も最高、眺望も最高、このコースは断崖絶壁の真ん中から、滝の下、滝の中間点を通って、絶壁をほぼ垂直に登る階段、滝の上、絶壁の頂上と、大自然を満喫できる最高のコースです。道標もしっかり整備されて、ゆっくり歩いて3時間程度の、私が知る限り最高のウォーキングコースです。



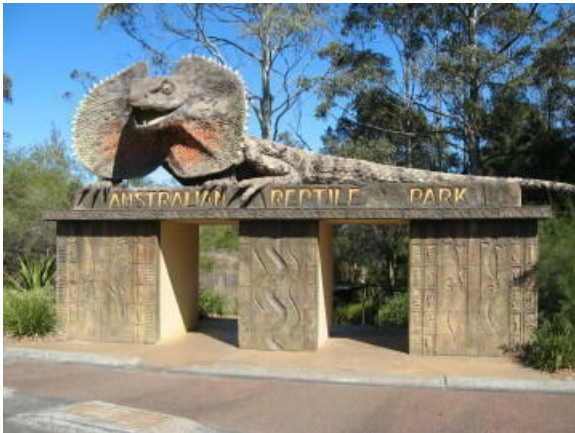
ゴールは、ピクニックエリアですが、出発点を除いて食事する場所が全くありませんので、もしこのコースを歩いてみたいと思う人が居れば、飲料水と食事だけは用意して下さいね。一応、私たちは、ピクニックエリアから、ウエストワースフォールズ駅まで歩いて、駅前のカフェで少し遅めのランチを済ませて、セントラルまで電車で戻りました。



6、ゴスフォード

オーストラリアの動物と言えばカンガルーにコアラ、ウォンバット。お腹の袋で子供を育てる有袋類の可愛い動物たちが大好きで、必ず動物園を訪問しています。

シドニーなら、サーキュラキーからフェリーで行くタロンガ動物園、ダーリングハーバーの水族館の横に位置するワイルドライフ・ワールド、ブラックタウンのフェザーデイル動物園あたりがメジャーですが、今回は、オーストラリアの爬虫類を集めた個性派の動物園「オーストラリアン・レプタイルパーク」を訪問。



場所はセントラル駅から電車で北へ1時間半のゴスフォード駅からタクシーで30ドル。タクシーの領収書を出せば入場料25%割引なんてルールをネットで調べてきてたのですが、駅前のインフォメー

ションで地図を貰って行き方を尋ねたら、それを説明してくれました・・・いや、説明してくれたみたいでした。

この動物園は個性的で、アメリカのアリゲータを天然の池で放し飼い、舌の青い可愛い顔したトカゲ、動くガラパゴス陸ガメなどが展示され、爬虫類館(ここに一世を風靡したエリマキトカゲが居ます)にカエル館とかクモの館、鳥のゲージなどがあって、後は有袋類だけを集めています。

朝一番に入場したから、タスマニアデビルは、走り回っているし、2組の親子のコアラはエサのユーカリを与えられて元気いっぱい。子供のコアラ2匹のタックル練習で可愛い頭同士がゴツツン。ウオンバットもゴロンと転んで楽しそうだし、元気なロックワラビーに餌を探すハリモグラ。

やっぱり動物園は午前中に訪問するのが一番ですね。また、ここにはカモノハシも居て、得した気分になれます。



欠点は公共の交通手段が無い事と、全く日本語が通じないことですが、遠足で来ているたくさんの子供たちにも出会えるし、手に届く程の距離で可愛い有袋類と触れ合えるし、小さな敷地ですが楽しい時間を過ごすことができる秘密の場所と表現するのが最適です。

7、ホエールウォッチング

ダーリングハーバーからタスマン海に出て、元気に泳ぐクジラを観察・・・って、これはお勧めできません。





外洋に出る関係上、クルーズ船は揺れるし、確実にクジラを観察できるかどうか、わからないので、辞めておくのが無難な選択だと思います。

事実、このツアーを予約した日は、雨風が強く船が上下に大きく揺れて乗船したツアー客みんなが船酔い。船長が乗客にツアー中止を宣言して、再乗船のチケットを交付してくれましたが、船に対する恐怖感を植えつけられて降参。船から降りても気分が悪く、ホテルに帰って一休みして体調を整えて何とか夕食を口にしました。



まあ、再度乗船した際は、好天に恵まれ、外洋のコンディションも良く、海から巨大なクジラが浮き上がり、潮を高く噴き上げて、真っ白の腹を見せて飛び上がる姿を観察できて、生命の息吹に感動したのは事実ですが、覚悟を決めてツアーに参加して下さいね。

8、シドニー

今回のツアーで活躍したのは、電車・バス・フェリー乗り放題のシドニー交通局の7日間乗車券(1人57ドルで1週間フリー)というもので、1区にあたるチケットが3.2ドル、長距離のカトゥンバまでが7.8ドル、マンリーまでのフェリー代が6.6ドルですから元は取れているはず。

また、食事でお勧めは、タスマン海で取れたロックオイスター(生の牡蠣)をはじめとするシーフードに、オーギービーフのステーキに、イタリアンなどなど。

ディナーは、ウォーターフロントのダーリングハーバーで、ボトルで白ワインを注文して、日本でいう皿鉢料理のシーフード・プラッターで決まり。ロックオイスターに白身魚のフライ、イカリング、ボイルしたロブスター、海老のガーリックバター焼き、ムール貝のワイン蒸しなどが大皿に乗って登場。食い

しん坊のハートを鷲掴みしてくれますぞ。



ともかく、歩いてよし、乗ってよし、海よし、山よし、風景よし、空気よし、食事よし、ワインにビール良しのシドニーは、世界で一番魅力的な都市だと、勝手に主張したいと思います。

皆さんも一度お試しあれ。(参考まで2010年9月現在・1ドル80円程度)

2010年9月23日記

[Top](#)
[トップ](#)
[↑](#)

[Back](#)
[戻る](#)